

# 中部国際空港開港15周年 二本目滑走路の実現に向けて

中部国際空港(セントレア)は2005年の開港以来、中部圏と世界を結ぶゲートウェイとして、中部圏の発展に寄与してきた。今後の中部圏の発展、そして中部圏が一翼を担う日本経済の持続的発展のためにも、セントレアを基軸とする航空ネットワークのさらなる拡大と一層の利便性向上が欠かせない。日本の基幹的なインフラの一つとして、“いつでも安心・安全に利用できる強いセントレア”を実現するためには、二本目滑走路の整備が不可欠である。

## 拡大するセントレアの利用

2012年以降、インバウンドの急増やLCCの就航増加を背景にセントレアの利用が拡大しており、2018年度は過去最高の旅客数を更新。2019年度も利用の拡大は続いている。さらに、2030年度には旅客数2,000万人達成を目標に掲げていることから、今後も航空需要の拡大が見込まれる。また、2027年にはリニア中央新幹線の東京ー名古屋間の開業が計画され、アクセス利便性が格段に向上することから首都圏・中部圏の空港が相互に補完しあうことが容易になる。そのため、“首都圏空港”としての役割も期待される。

## 安全・安心・安定的な空港の運用を目指して

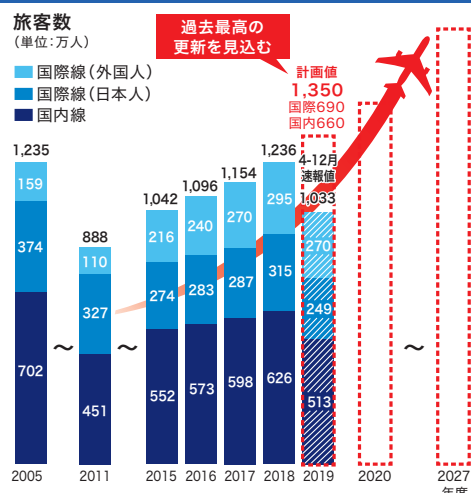
セントレアは海上に立地するため騒音問題がなく、24時間航空機が発着可能な空港だが、一本の滑走路で運用していることから滑走路メンテナンス中の航空機発着が出来ず、完全24時間での運用を果たせていない。また、滑走路上でトラブル発生が即航空機の発着制限に直結する。中部圏の社会・経済を支えるセントレアがより安定的に空港サービスを提供し続けるためには、複数滑走路の整備が不可欠といえる。

## セントレア二本目滑走路の早期整備に向けて

国内の主要空港では、セントレアと同じ国際拠点空港である成田、羽田、関西に加え、新千歳、伊丹も複数の滑走路が整備されている。また、那覇(2020年3月供用予定)や福岡はすでに二本目滑走路整備に着手している。中経連は、セントレア二本目滑走路の早期整備に向けて、今後も政府に対する働きかけや空港の利用促進など、積極的に活動を展開していく。

詳しくは、中経連ホームページ(<https://www.chukeiren.or.jp/news/p7734/>)をご覧ください。

## 旅客数の推移



## 国際線 就航都市数および週あたりの便数

|       | 2005年開港時 | 2019年度※   |
|-------|----------|-----------|
| 就航都市数 | 25       | 42(68%増)  |
| 便数/週  | 267      | 482(82%増) |

※2020年1月1日時点  
出所:中部国際空港(株)提供資料より作成



赤羽国土交通大臣への要望活動(西日本経済協議会)